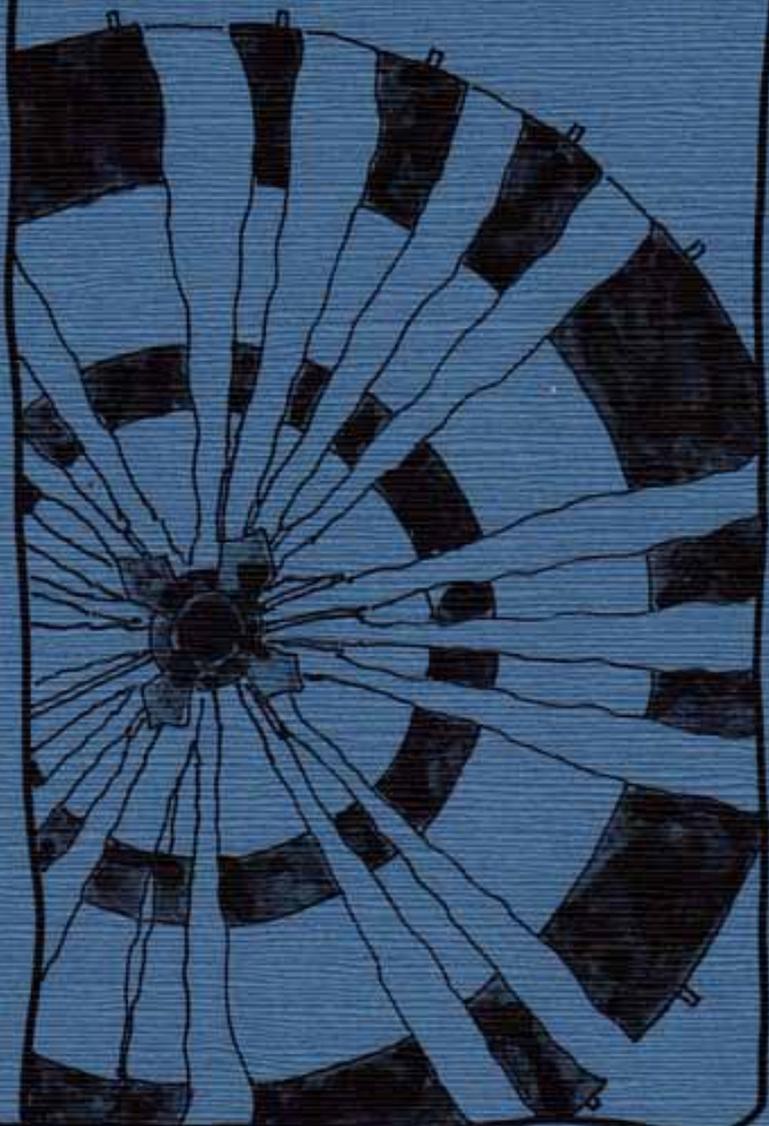


やぶれ傘

一二二号

二〇二二年八月



人參の花のあたりをとほりけり 根橋安次
 梅雨ぐもり真上の空にまるい穴 大島英昭
 土曜日の美容院出てまだ西日 きくちきみえ
 草矢打ち飽きて川面に石を打つ 青谷小枝
 中州まで蓮の浮葉は途切れなく 丑久保 勲
 外出を控へて妻と心太 廣瀬雅男
 バゴダから黄の衣の僧が緑蔭へ 藤井美晴
 噴水のライトアップが消えにけり 瀬島酒望
 夏の午後ひんやりとするふくらはぎ 小山よる
 沖縄忌伯父の名のある慰霊塔 天野美登里
 自衛官募集の掲示アカンサス 渡邊孝彦
 柿若葉おほじきひとつ弾け跳び 有賀昌子
 青梅の尻を敷へてをりにけり 白石正躬
 やうやくに陽の沈みゆく蟻の道 秋山信行
 蟬のこゑ考へことの隙間へと 安藤久美子

抄集句 傘 紀 大崎 選

桜の実 科学博物館の前 浅嶋 肇
 朝もぎの胡瓜ちくりとたなごころ 泉 一九
 見上げれば流れる雲とねむの花 奥田温子
 走り茶を仏前で汲む朝静か 亀岡睦子
 梅雨に入る居間に明るき花を活け 木村瑞枝
 西日中都電大きくカーブして 倉澤節子
 レジ脇のチョコひとつ買ふ梅雨晴間 柴崎和男
 ソーダ水街行く人の見ゆる席 高橋 均
 お早うときれいな声の夏はじめ 貫井照子
 放水の黒四ダムに虹たてり 野口希代志
 一礼して投了告げる夏夕べ 広瀬 濟
 梅雨晴の空に綿雲二つ三つ 箕田健夫
 噴水の水ことごとく水に落ち 武藤節子
 薄暑光ゆつくりまはす万華鏡 森 美佐子
 夏草に押し当ててゐる鳩の腹 山本久枝

湯本正友
草むらをのそのそと出るひきがへる
薄雲の向うに夏の月昇る
駅前の花壇に置かれ夏帽子
川岸で耳澄ませれば雪加鳴く
前売りの乗車券買ふ夏の雲
通院の帰りに潜る茅の輪かな
さわさわと日差しを返す竹落葉

吉田幸恵

でで虫を見てでで虫の歌うたふ
梅雨最中フレンチトースト焼いてをり
二瓶の梅酒仕込みて昼となり
角曲がる友を見送り夏の月
しやくとりの真一文字になりにけり
かりと噛む蔓からもぎりたる胡瓜
洗ひ桶茄子五つほど浮かびをり

浅嶋肇

ジャズ喫茶ピアノの横に紅薔薇
濃紫陽花家の近くに救急車
客の間を少し開け置く梅雨晴れ間
ゆつくりと川曲りゆく行々子
夏の月貨物列車が長々と
幼子の大きき茅の輪を跨ぎぬる
桜の実科学博物館の前

石塚清文

真夜中に矢車回る音のして
ほつこりと焼けし篠の子道の駅
犬小屋に花影のびる立葵
トタン屋根実梅転がる音のして
階の下が狩場か蟻地獄
この夏は近場の旅へ発券機
鰻重の小骨が喉に残りけり

ひとすすり気持ちの替はる心太
木の影に水輪を作る通し鴨
芒種なり田の水をゆく鳥の影
草刈れば潜みし虫のここかしこ
出されれば手が止まらないさくらんぼ
葦切りの高き鳴き声芦を抜け
翼張り飛魚飛び船の横

石原健二

泉 一九

防雪柵開いて植田の風が来る
枝先をさらけに伸ばしてぶな若葉
なんとなく豚のしやぶしやぶ梅雨晴間
窓下の草の葉ゆるる梅雨の宿
松蝉の鳴く大町を白馬へと
夏の月あけびの蔓の籠を編む
朝もぎの胡瓜ちくりとたなごころ

伊藤 薫

ハンカチでまづ眼鏡拭く映画館
かぶりつく枇杷のしづくが顎濡らす
紫陽花は電車から見飛鳥山
整理券持つて浴衣の着付待つ
品書に「鮎」の字踊る店開き
辣蕪を漬けて昼よりカレー煮る
緑蔭に正午を知らす時の鐘

岩藤 礼子

七回忌せめて卒塔婆と山百合を
やややしき名の紫陽花の浅緑
朝の風青葉は雨に洗はれて
茅の輪くぐる一人とリード持つ一人
梅雨晴間渋滞の先クレイン車
梅雨最中地階の店へ魚買ひに
梅雨最中子の「お手」「お手」に吠える犬

父の顔の思はず浮かぶ冷奴
 白靴の足取り軽くなりにけり
 衣更セーラー服の赤リボン
 風鈴の舌のねぢれてまはりぬる
 夏合宿フル回転の洗濯機
 廃校は泊まれる施設日日草
 うす暗い土間に泥靴夏終る

江口恵子

糸電話の糸は湿気でゆるみぬる
 裏庭のサボテンの花十五輪
 紫陽花の日毎色付く散歩道
 雨垂れの音止まらざる立葵
 道の辺の蜘蛛の巣に降る通り雨
 ひと筋の飛行機雲や梅雨晴間
 昼顔の咲くバス停に人は無く

枝みや子

葛若葉休館中の美術館
 見上げれば流れる雲とねむの花
 夏浅し昨日フリース今日丁シャツ
 入場券買つて駅中かき氷
 放棄畑背丈を越える夏蓬
 生垣へそつと戻して子蟻螂
 茄子漬けて今日の仕事は仕舞とす

奥田温子

雨風の強くなりけり夏落葉
 蜘蛛の囿に残る雨粒光りをり
 十葉の白きつぼみの続く土手
 虫眼鏡をかざす児の手の汗ばみて
 似顔絵と凶書券父の日に届く
 角曲り夏の朝日を正面に
 花手水小さき庭の小さき鉢

神山市実

採れたたての江戸紫のなすびかな
 亀岡睦子
 幼児の昼寝に母の団扇風
 切り株で赤い舌出す蜥蜴の子
 つびつびと鳥の鳴きある夏の朝
 葛切りに添へて出されし杉の箸
 蝦蟇の居てしばらく道の端をゆく
 走り茶を仏前で汲む朝静か

木村瑞枝

梅雨に入る居間に明るき花を活け
 雨ぽつと泰山木の花にきて
 立葵午後の日かげる線路際
 雨少し朝顔市の帰りしな
 片陰をひろひて向かふ日本橋
 暮るころ茅の輪を抜ける風ありて
 井戸端の桶にぽこぽこ甜瓜

倉澤節子

予後の眼に飛び込んでくる白いシャツ
 初蟬は線路向うの木立より
 西日中都電大きくカーブして
 口横に裂けてるピエロさくらんぼ
 貝の砂じやりつと噛んでつゆの明
 スーパーの裏の木立に啼く郭公
 手ぬぐひをよつつに畳み汗拭ふ

黒澤次郎

木いちごの花盛りなり道ほとり
 畝たての農婦ひとりや夏近し
 枇杷摘みが三脚梯子かつきゆく
 梅雨入りや揺らして試す鎖樋
 緑蔭のベンチに座すやかからず鳴き
 サツキ散る何と言ふこと無き日なり
 老鶯の藪から棒に鳴きにけり

小池一司

夏祭稽古の囃子聞こえくる
独りでは淋しき味のビール飲む
家近しと思ふ間もなく驟雨来る
真つ青な夏の空へとホームラン
お互ひに無言ですごす夕端居
ひとけなきふるさとの海夏の波
駅までの道に匂へる栗の花

小泉里香

バス停は银杏青葉の門の前
読みかけの小説開く梅雨最中
板塀の穴に集中水鉄砲
トラックは砂巻き上げて姫女苑
夕顔のひとつつふたつと勝手口
魚屋がよしはずひろげる午後三時
夏椿雨の匂ひの石階段

小巻若菜

バスを待つ卯の花ながめ空ながめ
走り梅雨鴉は地面すれすれを
青嵐権の助坂ゆけば川
日の盛り自転車でシャツ膨らませ
傘差す人差さぬ人ある額の花
再びの雨となりけり凌霄花
葛切に黒蜜かける午後ひとり

坂本和穂

紫陽花に魅せられて下車無人駅
百合咲けり三本同じ色と丈
ぼた山内山峠入口の記念碑の草木の上
記念碑に「青天を衝け」紅の花
早川の早瀬を上る鮎の群れ
手を打てば鯉の寄り来る夏の暮れ
郭公の声聞きながらツーリング

佐藤 稻子

茅 葺の 蘆花の 旧居に 青葉 風
書 院への 渡り廊 下の 蚊遣 香
旅 好きの 藍花の トランク 夏に入る
幹の 瘤にに よきに よき 白き 梅雨 茸
垣 超えて あまた 垂れくる 青葡萄
屋 敷林 伐りて 広げる 夏の 空
車 庫に入る 回送 電車 合歓の 花

眞田 忠雄

よ しきりが 田んぼ 向うで 鳴いて ぬる
遠 雷を 気遣ひ ながら 糶を 蒔く
べ ビーバスを 種井と したり 井戸の 端
埋 め立てに 屍の 土を 復帰の 日
南 部の 土に 草生す 屍慰 靈の 日
蜘蛛の子を 蹴散らして 取る 一番草
塩^し辛^お蜻^か蛉^らも むぎわらも 居る 堰の そば

南部・沖繩部の戦跡地

柴崎 和男

ぱ らばらと 降りまた 晴れて 雲の 峰
窯 出しに 貫入の 音 夏きざす
竹 落葉 落ちきる までを 眺め ぬる
口 きくも 煩はしき 日扇 風機
レ ジ脇の チョコ ひとつ 買ふ 梅雨 晴間
「ア マデウス」の 半券が 出る 我が 曝書
稲 びかり いっし か次を 待つて ぬる

高橋 均

裏 木戸の 風に 梅雨 入りの 気配 あり
日 の暮れの 茅の 輪をくぐる 親子 づれ
高 速路を 右に 曲がりて 雲の 峰
煮 えたぎる 鍋に 冷麦 放ち けり
ソ ーダ水 街行く 人の 見ゆる 席
さ うめんに 残る 氷や 昼の 雨
い ふことを きかぬ パソコン 猛暑 来る

◇ 9月・10月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
9月	1日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	24日(金)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	25日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
10月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	秋山 信行
	4日(月)	PM6:00	ぎんなん会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	武蔵浦和コミセン	大島英昭
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕9月の「楽天」は24日(金)に変更します。

10月の「なごみ会」「ぎんなん会」「うらら会」は武蔵浦和コミセンです。

10月17日(日)の吟行。集合 10時。JR北浦和駅

吟行地 さいたま市・見沼。

句会場 未定キャンセル待ち。

キャンセルが出なかったら午前中散策して解散。

俳句は後で丑久保へ送る。

◎連絡先 秋山 信行 ☎ 048-874-0555 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856